

活動分野：

文化・スポーツ振興

研究者名(研究グループ名)：

文学部 日本語日本文学科 工藤彰(工藤ゼミ)

活動概要

日本語日本文学科工藤ゼミにおける映像コンテンツ制作のなかで、夏課題の「アダプテーション」(6月中旬制作開始、9月中旬完成)と秋課題の「フェイクドキュメンタリー」(9月下旬制作開始、12月中旬完成)を制作した。  
 アダプテーションは、谷崎潤一郎の短編小説「秘密」を下敷きに、武庫川女子大学の講義室や噴水前広場、甲子園会館のほか、武庫川河川敷やららぼーと甲子園を舞台に撮影を行った。作品はららぼーと甲子園において数日間上映した。  
 フェイクドキュメンタリーについては、神戸の三宮・元町エリアの観光地を中心に撮影を行った。学生たちは本人役で出演し、舞台設定も現実とほぼ同じまま、現実と虚構を行き来する物語となった。完成した作品は、図書館2階グローバル・スタジオで一か月間上映した。

コーディネートの課題や運営面での努力

西宮市・阪神間で歴史的文化的に重要とされているものの、特に学生や若い人たちにとってあまり知られていない場所を舞台とすることを狙いとしていたが、該当エリアになじみのあるゼミ生がいなかったこともあって、身近な場所を舞台に選択することになった。作中の「武庫川」や「甲子園会館」には、実際に足を運びたいという鑑賞者の意見もあり、コンテンツツーリズム的な効果はある程度見られたが、今後はロケハンを演習内に組み込むなどして、稀少価値の高い場所を見つける努力が必要である。

活動内容

活動・研究・委託テーマ	映像コンテンツ制作
対象となる地域・企業等	西宮市・阪神間・ららぼーと甲子園
活動学生(ゼミ・学年等)	工藤ゼミ・3回生
連携時期	2019年7月1日～2020年3月31日
学外への広報方法	チラシ配布(ららぼーと甲子園)
連携の内容・連携のプロセス	工藤ゼミではアダプテーションとフェイクドキュメンタリーを当初から制作する予定だったが、地域連携推進事業と協働することで、さらに「地域」を意識したコンテンツ作りをおこなうことになった。具体的には、本学のある西宮市にくわえ、歴史・文化的な場所の多い阪神間を舞台の中心にすることにした。また、地域企業との連携として、ららぼーと甲子園の協力のもと、同ショッピングモールで映像撮影をおこない、フードコートのテラス席を背景として、飲食店アルバイトの登場人物を自然にカメラにおさめることができた。完成した作品は、ららぼーと甲子園2階のオーシャンライドコートで上映した。
地域面・教育面での成果	学内では普段接することのない地域や企業の方と意見交換できたのは良い機会となった。作品を制作するだけでなく、限られた期間のなかで広報や上映を実施するためにどのように動けばよいか、実践的に学ぶことができた。

活動内容PR(活動の様子・関係者からの評価等)

夏課題アダプテーション『YellowLilyの嘲笑』

キャプチャ画像



チラシ





2020.1作成